

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 75

発行日 平成16年9月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

座談会 第1期の修士344人誕生	1
総合文化プログラム文化情報科学群・コーディネーター 渡辺 保	
総合文化プログラム環境システム科学群・コーディネーター 熊原 啓作	
政策経営プログラム・コーディネーター 森谷 正規	
教育開発プログラム・コーディネーター 波多野 誼余夫	
臨床心理プログラム・コーディネーター 滝口 俊子	
大学通信編集委員会委員長 杉本 大一郎(司会)	
放送大学20周年記念式典・記念講演・シンポジウム	5
放送大学名誉教授の称号授与	12
平成16年度開設改訂科目紹介	12
心の科学('04) 教授 西川 泰夫/教授 波多野 誼余夫	
若者の科学離れを考える('04) 教授 岩村 秀/副学長 中島 尚正	
教授 波多野 誼余夫	
古代地中海世界の歴史('04) 東京大学大学院 教授 本村 凌二	
大妻女子大学 非常勤講師 中村 るい	
研究室だより	14
助教授 奈良由美子 / 助教授 二河 成男	
教務のお知らせ	15

第1期の修士344人誕生

< 座談会 >

総合文化プログラム文化情報科学群・コーディネーター
 総合文化プログラム環境システム科学群・コーディネーター
 政策経営プログラム・コーディネーター
 教育開発プログラム・コーディネーター
 臨床心理プログラム・コーディネーター
 大学通信編集委員会委員長

渡辺 保
 熊原 啓作
 森谷 正規
 波多野 誼余夫
 滝口 俊子
 杉本 大一郎(司会)

放送大学大学院の特徴

杉本 去る3月に第1期の修士全
 科生が卒業しました。平成14年
 度入学者549人のうち、344人が2
 年間という最短期間で学位を取
 得されたことは、当初に考えて
 いたよりも成果が上がっていま
 す。一方、修士科目生のほうは、
 現在、6,000人余りの方々が単位
 をとるべく、学んでおられます。

今日は、主に全科生の話にな
 りますが、放送大学大学院に特
 徴的な事柄がいくつかあります。
 第1は通信教育、第2は生涯教育
 で、学生の殆どが社会人だとい
 うことです。第3は、すべてのジ
 ャンルを含めて一つの文化科学
 研究科になっていて、いろいろ
 な専門分野にわたる横断的な実
 践のできる人材を育てたいとい
 うことです。第4の特徴は、放送

大学の専任教員に加えて、外部
 の先生方を客員研究指導担当教
 員としてお願いしているという
 ことです。現在、その数は252名
 に及びます。

今日はプログラム・コーデ
 ニーターの先生方に集まってい
 ただきました。まずは修士論文

のことで、提出された論文
 は図書館の中に備えてあり、申
 し込めば閲覧することができま
 す。良い論文がいろいろと出来
 ていると言われています。総合
 文化プログラム文化情報科学群
 の渡辺保先生からどうぞ。



修士論文のテーマ

渡辺 私のところの論文は、なかなかレベルが高いと思います。それを出版したいと言っている研究機関もありますし、少し手直しすれば単行本になるようなものもあります。横断的なテーマの捉え方



渡辺 保
(総合文化プログラム文化情報科学群)

も、成功していると思います。テーマの選び方はかなり広範囲にわたっていて、それぞれ対応した専門家の指導を受けられるということで、学生は幸せだと思います。杉本 客員の先生方には、専門の関係をお願いしている場合と、学生の居住地域に近いところということでお願いしている場合とがあります。環境システム科学群では、熊原啓作先生どうですか。熊原 テーマの幅は非常に広く、ミクロの世界から宇宙まで、またいわゆる自然科学から健康科学までを含んでいます。修士論文の題目を見ても、例えば科学哲学から生物世界のことまであります。われわれのまわりにあるすべてのものが研究対象になりますが、自然科学的な研究方法ということで、まとまっています。私が指導した学生について言いますと、すでに定年退職されたお年の方もおられますが、お目にかかるたびに研究が進んでいて、感動しています。杉本 学生から提案されるテーマは多種多様で、先生の方でどうしたらよいか困ったということもあるのではありませんか。熊原 私の専門は数学ですが、数学を研究したいという学生は一人もいなかったというのが実情で、工学的なものから環境教育の問題までいろいろでした。初対面の先生を外部から探してきて、研究指導をお願いしたこともあります。渡辺 分野が横断的になると、専

任の先生だけでは解決できないような問題もたくさんあります。そのため、私たちが逆に啓発されることもありました。杉本 広がりと言っても、渡辺先生が言われたのは、いろんな人々がそれぞれ違うテーマで研究しているという広がりです。文化科学研究科で目指しているもうひとつの広がりとは、1人の個人の中で分野的な広がりを体現することです。政策経営プログラムの方はどうですか。森谷正規先生。森谷 基本的にはマネージメントのことを扱うわけですが、なかでもパブリックな性格を持つ事柄が中心です。そういうことで地方自治体の方や公務員の方、会社員では福祉や環境の問題を扱っている方が比較的多いのです。そして現実社会に生起している多様で複雑な問題を抱えて入学してこられました。基本的にはどんなテーマでも受け入れるという姿勢を取ってききましたが、あまりにも漠然としていて、それでは研究にならないからもっと絞りなさいと言ったこともあります。それに対し、明確な問題意識を持ってきた学生は、例えば、企業における研究開発テーマの選択という問題に挑戦して、非常にいい論文に仕上げました。杉本 21世紀の社会を生きるのに、いろいろとシステムの難しい横断的な問題が起こっています。環境問題やエネルギー問題はその典型ですね。そういうことを問題解決型のテーマにしていこうということですね。その際、あるプログラムに所属する学生さんが他のプログラムで提供されている講義を聞いて単位を取って視点を広げたり、いろいろな視点の人とつき合ったりすることは大切です。そういうことがうまく機能して、成果も出始めているということだと思います。波多野 波多野 教育は人という動物を特徴づける重要な要素であって、チンパンジーは教育しないとダメです。逆に人の生活の中では、いろんなところで教育ということ

がでてくるので、その広がりとは心の教育、身体教育ということもありますし、個人のレベルの教育、集団のレベルの教育、社会のレベルの教育ということもあります。学校経営という問題ですと政策経営プログラムの中から、国語関係の先生だと文化情報科学群から授業を取りたいということもあって、結構広く学んでいます。修士論文のレベルはかなり高く、学会で発表してもらった方がいいものも、相当数ありました。杉本 学生さんのなかで、学校の先生は数が多かったのですか。波多野 最初はほとんどが小中高の先生かと思っていましたが、実際にはそうではなく、多様でした。この点でも予想を超えていて、面白かったと思います。



波多野 誼余夫
(教育開発プログラム)

杉本 臨床心理プログラムの方は目的がかなり明確だと思うのですが。他のプログラムとの違いはどうですか。滝口俊子先生。滝口 臨床心理では、修士論文をプログラムの研究室に保管してあります。希望する学生には、研究室での閲覧を許可しております。相談に来られたクライアントのプライバシーに関わる論文があるからです。学会誌への投稿を勧めた優れた修士論文もあり、学生たちは真摯に研究に取り組みました。

研究とは何か

杉本 ずいぶん立派な成果を上げられたという話だったですね。新しく大学院へ入ろうと思っている人が、そんなにしなければならぬのなら大変だと思うかもしれませんが、中には文献を調べて並べただけというようなものも、あったのではないのですか。

森谷 調査と研究は違うのだと最初に言っているのですが、なかなか伝わらないことがあります。杉本 修士論文に合格しなかった人の多くは、社会人としての仕事のタイミングとの関係で十分な研究時間がとれなかった。そこでもう一年継続するという場合が多かったのではないですか。渡辺 そのとおりです。もうひとつの問題として、論文の書き方に慣れていないということがあります。感想文と論文とはどう違うのか最初に言っているのですが、そこまで出来なかったという人もありますね。いかに真実を書いたとしても、文章表現がまずければ、伝わらないということもあります。きちんと内容を伝える文章術をまず身につけてほしいのです。杉本 話すべき真実をとらえているかというのが、第一義的に重要なことですね。その真実をどう表現するか。それはレトリックの問題よりも、むしろプレゼンテーションの論理構造の問題だと思うのです。熊原 企業に勤めている人は、だいたいその仕事の専門家なのです。そういう人はいいテーマが得られると、いい論文が出来ています。それに対し、インターネットや書籍に現れる流行の言葉、例えばカオスだとか複雑系だとかいう言葉を使って研究の狙いを話すような人は、具体的には全然分かっていない場合が多かったりして困ることもあります。私の場合には、



熊原 啓作
(総合文化プログラム環境システム科学群)

5月に、タイムスケジュールの入った研究計画を出してもらって、問題をきちんと立てて、それをチェックし修正しながら進めていくことにしています。杉本 修士論文がもしくは特定課題研究を提出してもらうというこ

とになっています。両者はいったいどう違うのだと尋ねられたとき、どう答えておられますか。熊原 両者の区別はないと言っています。総合報告でも、新しい見方が含まれていれはいいのです。森谷 基本的には大きな違いはないと答えています。非常に複雑な問題をきちんと調べて整理し、問題点を浮き彫りにしたというのは、特定課題研究として十分に価値があると思います。杉本 その問題点の解決は、次の研究段階の課題だということでもいいのです。それから放送大学の基本的な考え方の中に、高度専門職業人を養成するということもあります。それに最も関係が深いのは、臨床心理プログラムですか。滝口 臨床心理士有資格者の学生もおりますが、多くの学生は臨床心理士になることを目指していますので、臨床心理実習は必要です。学生たちの在住する全国各地に臨床心理実習をお願いして、担当してくださる臨床心理士には放送大学大学院の非常勤講師として、濃やかに指導していただいています。森谷 政策経営では、いい例がありました。その人は学部卒業の研究で、自動車のリサイクル問題を取り上げました。ある自動車メーカーに勤めている方です。大学院でも同様なテーマを取り上げました。この人は、実は定年退職の年齢になったのですが、そういう研究をしているのなら是非会社に残って、他社と共同で研究するグループリーダーになってほしいと、乞われました。その方の定年が延びたわけです。熊原 環境システム科学群では高度専門職業人を養成するのではなくて、そうなるために必要な知識を与えとか、そのお手伝いをしています。専門に特化するのとは逆なのですが、例えば自然科学を専攻していて国際関係論や地方自治論の講義を聞いて有効な単位とできることが制度として保証されているのは、他の大学院にはない特徴であると思います。杉本 社会人ですでに高度専門職業人になっている人もあるわけで



杉本 大 一郎
(大学通信編集委員会委員長)

す。冷凍機の専門家として、会で研究レベルのことをしていて、細かいデータまで知っている人がありました。大学院では、基本へ戻り、原理的な事柄をもう一度考え直すことによって新しい視点を開くということになるわけです。そのことを具体的に示唆したら、最初のうちは、私は毎日忙しいので、そんな基本にまで戻っている暇はありません、と言っていました。しかし2年間やった結果、やはり基本に戻ってよかったということになりました。だから養成といっても、いろいろあるわけです。

研究指導の実際

杉本 大学院の設立構想を立てた4、5年前に比べると、通信手段を取巻く事情は一変し、電話の通話料金も格段に安くなりました。波多野 私の所のひとつの例は、インターネット上の掲示板を使って、学生同士が意見交換をします。まずは院生同士で議論を進めてもらいます。先生の役割は、学生同士のインタラクションと関係しながら、先生との関係も作っていくことです。その他に、年に何回かの集まりを持って、厳しい議論をする。客員の先生との間で議論になることもありました。渡辺 私のところはテーマが多様に分かれているので、集まって一緒にやるというのは難しいのです。私個人のことを言いますと、家庭教師的な指導をしています。しばしば電話をかけたりメールのやり取りをしたり、面接したりしないと深まらないテーマが多いからです。私の場合、電話が一番多かった。メールだと言いつつ足りないところが出てくるので。杉本 私も同様な印象を持ってい

ます。メールだと単純なことならともかく、話を論理的にきちんと伝えようと思うと、すぐに1万字も書かなければならないことになって、大変です。また返事との間にタイムラグがあるので、議論になりにくい。電話だと相手の対応によって、どこまで通じたか、理解なり誤解なりされたかが、リアルタイムで分かってしまう。

波多野 電話で困るのは、両者の時間の都合を合わせられるかという問題です。

渡辺 私は都合のつく時間帯を知らせてありますから、学生はそこを目掛けて長電話をします。

杉本 電話が無定見にかかってくると大変だとおっしゃる先生のほうが多いのです。しかし私個人について言うと、固定電話にかかってきたものを携帯電話などに転送するようにしていますから、何時でも、どこでも連絡がつかます。だからこちらの都合が悪いときには、いまはダメだからまた後で、と言うこともできるわけです。電話で何時でも紐をつけられていると、私の行動の自由度はかえって増すという、一見矛盾したようなことになっているわけです。

渡辺 学生は日本全国に散らばっているの、学生を集めて集団指導をやっていたら、学生達の出費も膨大なものになります。それに私の所では源氏物語をやっている人もフランス文学をやっている人もいるから、個人指導になるので、もちろん表象文化という共通基盤はありますが、修士論文とかなれば、かなり細部に突っ込んでいかなければならないので。

杉本 他の専門分野だと、目先はそれぞれかなり違うテーマを追求していても、共通の基盤があることがかなり重要で、集団指導が役に立つという面もありますね。他の人の話を聞いて自分の立場で考え直すということです。そこでなるべく集まる機会を多く持とうとされたところがありますか。

森谷 私の所のやり方は、集団の中の個人です。テーマが学生によってそれぞれ異なりますから、共通のことを議論するのは不可能で

すが、それでも集まってもらった方がやり易いということもあり、月に1～2回くらい全員に集まってもらっています。もっとも、内容を深く突っ込んでいくと、互いに関心がなくなってきたりすることもありました。しかし学生の方には、皆で集まりたいという気持ちも強いようです。

杉本 具体的なテーマは異なっても、研究の進め方や共通の基盤についてはお互いに興味を持ち、横断的に物事を考えていく習慣を育てましようとか、非常に重要な面もありますね。私は、先程、電話は便利だと言いましたが、集団指導とはやはり相互補完的な関係にあると思っています。

渡辺 私個人は個別指導を重点にいきましたが、文化情報科学群でも集団でやる方も多いです。

波多野 教育という問題では、例えば理解とか、理解を促すための内省とかいう重要な概念がいくつかあります。そういうキーワードをとおして、テーマは異なっても共通の話題になるものですから、先ほど紹介したインターネット上の議論でも、皆が参加してきます。これもある種の集団指導ですね。滝口 面接授業において仲間の状況を知ることが、とても良い刺激になっています。各教員による個別指導と集団指導との併用によって、成果を挙げています。

杉本 先生とかテーマの内容によって、いろいろなやり方があっていいということですね。

放送大学大学院に望むこと

杉本 最後に一言ずつ。



▲滝口 俊子（臨床心理プログラム）

滝口 臨床心理士資格試験に合格して、スクールカウンセラーなど、臨床心理士として全国で活躍することを心から期待しています。

波多野 大学としてももう少しサポートした方がいいこともいくつかあると思います。面接授業をやる価値があるか検討しなければならないし、院生に読ませたいジャーナルをどう手配するかなどです。森谷 先ほど出た仲間の話では、年齢でも職種や立場でも非常に多様な学生が学んでいて、仲間にな



▲森谷 正規（政策経営プログラム）

れるのが、大きい特徴の一つです。そういうことを世間に知ってもらおうよう、大学としても努力する必要があるでしょう。

熊原 学生の中には一般の大学院との違いに関して不満を言う人がありますが、その違いが特色ですので、そのところをよく考えていただきたいと思っています。プログラムや群の間の壁というか違いに対して、もっと柔軟に対応できればいいと思っています。

渡辺 森谷先生がおっしゃったように、この大学院の実情が必ずしも世間には知られていないという問題があります。その結果、応募者数が先細りになることがあるかもしれないと心配しています。平成15年度修了者の修士論文はレベルが高かったけれども、そのレベルを維持するためにも、世間に知らせることが重要です。

杉本 放送大学としても努力して育てている大学院ですから、世間によりよく知っていただき、批判もしていただいて、更に良いものにつなぐれば良いなと思います。本日はどうもありがとうございました。

（座談会 平成16年6月23日）

放送大学20周年記念式典 記念講演・シンポジウム



昭和58年4月に放送大学が開学して以来、昨年で20年を迎えました。これを記念して、平成16年6月3日に東京都千代田区の九段会館ホールにおいて、放送大学20周年記念式典・記念講演・シンポジウムが開催されました。河村文部科学大臣をはじめ、多数の来賓の臨席のもと、約500名の学生・卒業生及び関係者が出席しました。式典では、丹保学長が20年の歩みを振り返り、関係者の尽力・支援への感謝と次の10年に向けた抱負を述べ、河村文部科学大臣並びに麻生総務大臣の祝辞の中で、放送大学への今後の期待が述べられました。続く記念講演会では、「何のために勉強するの？」と子どもにきかれたら、どう答えますか」のテーマで石井紫郎氏が講演を行い、シンポジウム「放送大学の未来に向けて」では、5人のパネリストによる討論が行われました。学長挨拶、来賓祝辞、記念講演・シンポジウムの概要等は次のとおりです。

記念式典

学長挨拶

放送大学長 丹保 憲仁



本日、河村文部科学大臣はじめ御来賓の御来場をいただきまして20周年の祝賀の式典を開きますこと、大変光栄にうれしく存じます。

放送大学は、昭和58年4月に開学して以来、20年の年月を経ることができました。正確に申しますと、昨年がちょうど20周年にあたったわけでございますけれども、放送大学学園が特殊法人から特別な学校法人へと創立以来の設置形態を変更いたしました。その転換の仕事が一段落いたしました今日、御報告を兼ねてこの催しを計画させていただきました。昭和42年（1967年）に、文部省の社会教育審議会が、「教育放送のあり方について」諮問されたことを嚆矢といたしますと、37年の歳

月を経たということになります。長い間、この大学を育てていただきました日本全国・各界の皆様、に、大学を代表して心から厚く御礼申し上げます。

放送大学は創設以来、幾多の先人の努力と関係各機関の御指導、御支援を受けて、国民の旺盛な学習意欲に支えられ、現在10万人余の学部学生、大学院学生を擁し、累計いたしますと3万人を超える学士を輩出したしております。今春には、最初の修士の学位を344名の方に授与することができました。大きな大学に成長してまいりました。関東地区のみを放送エリアとして20年前に発足いたしましたこの大学は、ビデオ学習センターを平成2年から順次全国展開

し、平成10年（1998年）からテレビ放送などによる学習の全国化を成し遂げました。全国の都道府県に学習センターを設置いたしまして、各地の機関、大学の絶大な御支援をいただき、今日まで86万人もの方々が本学の学生として学び、単位を修得してまいりました。

学生にならなくても、印刷教材を求め、放送を聞いてくださっている国民の数は膨大なものになると思っております。これは、潜在的な放送大学の支援者であり、放送大学の受益者であると考えております。名実ともに日本の遠隔（放送）教育、生涯学習の中核をなす大学であり、放送で遠隔教育を行う世界最有力の大学のひとつであろうと考えております。「The University of the Air , Japan」と英語で称しております。「the Air」というのは放送という意味でございまして、「おまえは、航空大学の学長になったのか」とよく外国の友人にいわれるのでございます。これは英語圏の相当のハイブローしか使わない言葉でございしますが、この大学の公式英文名称でございします。

平成元年（1989年）に、第1回の卒業生が出るときに、はじめて歌われた本学の学歌がございします。那珂太郎さんが作詩され、柴田南雄さんが作曲をされたものでございます。毎年の卒業式のときに、各学習センターから集まって来られた皆様方のコーラスを聞く度に、本学の一員であるということの喜びがこみ上げてまいります。

何故かということ、申し上げさせていただきます。歌詞の中にこういう文句がございします。「あまたの星々のなかの この地球にあって」で始まります。「われらはまなぶ 世界を 自分を」そして、「われら どこから来て どこにあるのか」と続きます。「生きるとはまなぶこと まなぶのはたのしみ 知は光 みどりの未来を展くため」これこそが、放送大学が教養学部をもって自分の位置を明確に定め、次の時代に向かって、地球の Sustainable な継

続に向かって動いていくという現代教養のエッセンスを歌いあげていると思えます。本当に、そのように思ってくださいている学生、卒業生と一緒にたくさんいることを、私は50年の大学の教員生活の中で至福の時間をいただいていると思っております。

地位を求め、権力を求め、財力を求めて、大学生活を最小の努力で通過したいと思っている人も少なからずいるように思ひまして、日頃から苦々しく思うことの少なくないことでございます。古い教育機関が、立派な仕事とともに、そういう人たちに占められてもいるということと大きく違った大学であることに、放送大学に対しての大きな喜びと誇りを感じております。21世紀を越えて、この地球に立派に生きていく人々のあるべき、またはあり得るであろう形を求めようと、学歌は呼びかけております。Sustainability が最大の命題となったこの時代の人間と環境の学である現代教養学が、この大学のこれからの学習の主題であろうと考えております。

そして、学歌は、「いつでも どこでも 見えない友と 共に生き 共にまなぶ 開かれた大学放送大学」と続きます。学習センターを核として、10万人の学生が全国で自らを高めるために学び続け、350人近くの常勤教職員と1,000人を超える客員教員やチューターなどが、幕張の本部や全国各地で、学生さん方の学習を支え、指導し続けてまいりました。この20年を価値ある歳月、価値ある歴史的財産として、隣接するメディア教育開発センターや他の諸大学と緊密に協力して、わが国の遠隔教育と生涯学習の中心となる大学として、次の10年の展開を図りたいと考えております。

また、アジアにおいて日本が求められている役割に鑑みれば、日本の遠隔教育、生涯学習の中核大学である本学は、国外にも積極的に目を向けていく必要があります。放送が国境を越えることは容易ではございません。様々な新しいメディアの活用も考慮に入れて、本学が培ってきた優れた教育

内容を国際化することは、次の10年に本学が果たすべき重要な仕事であろうと思っております。

21世紀の地球規模での国際活動も念頭に置きながら、国内の諸機関、大学はもとより、アジア諸国などの中核的なオープン・ユニバーシティ群と連携を強めていきたいと思っております。また、現代教養教育の中心的教育の方法・内容を設計いたしまして、国立大学法人、公私立大学との間で、協同と単位互換の実を上げていきたいと思っております。創設以来今日に至るまで御支援、御指導を賜りました各界の皆様、大学の発展に力を尽くしてくださいました先輩、同僚の皆様には深甚な感謝を申し上げて、20年の御挨拶といたします。

文部科学大臣祝辞

文部科学大臣 河村 建夫



放送大学が、創立20周年を迎えられましたことを心からお慶びいたします。生涯学習への国民の大きなニーズに応えるため、放送大学が設立されてから20周年を迎えました。放送大学は、昭和60年から学生の受入れを開始し、平成10年には通信衛星を利用して待望の全国化を実現しました。現在、約10万人の学生が全国各地で学んでおられますし、また卒業生も既に3万人を超え、放送大学の存在感は、非常に大きなものになっております。

加えて、平成14年からは、高度専門職業人の養成等を目指した大学院文化科学研究科の学生の受入れを行っており、先般の学位記

授与式で第1回目の修了生を344名送り出すなど、大変な発展ぶりでございます。このような国民の多様な学習意欲に応えるハイレベルの高等教育機関としての重要性は、今後さらに増していくものと思います。

これからの大学像についてよく問われます。国民の皆さんから、「今の日本の大学は、このままでいいのだろうか。」というお話を聞きます。「もっと入口は広くして、出口を少し絞り、入りやすく、卒業の難しい大学をつくるべきではないか。欧米諸国はそうになっているではないか。」というような意見が国会の議論の中にも非常に多くなってまいりました。まさに私は、放送大学というのは、入学時に厳しい試験があるわけではありませんかから、希望すれば皆受け入れる、しかし、卒業をするとなれば相当な克己心、学ぶ意欲、先程の学歌にもうたわれているように、「学ぶことが楽しいんだ、学ぶことが生きることだ」という思いを持たなければ、とても卒業できません。そのような意味で、私は理想の大学像がここにあるのではないかと思っているわけであります。

文部科学省といたしましては、現在「知の創造と継承」の拠点である大学の改革を目指しておりまして、競争的な環境の下で各大学における改革への取り組みが一層推進されるように、特色ある大学教育改革に対する支援、あるいは教育研究の質の向上を目指し、この4月から発足いたしました第三者評価制度の円滑な実施など様々な課題に取り組んでおります。とりわけ、生涯学習への対応の観点も、これからの大学に期待される重要な機能のひとつであることから、社会人の再教育、産業界との連携といった教育研究の高度化等も、引き続き積極的に進めてまいり所存であります。

昨年の10月から、放送大学学園は特別な学校法人として新たにスタートしたところであり、自主性、自律性が向上し、迅速かつ機動的な運営が可能となりました。これに伴い、放送大学はこれまで

にも増して、重要な任務であります生涯学習の中核的機関として広く利用されるよう、放送授業の更なる充実、学生サービスの向上など、一層充実していくことが期待をされております。文部科学省といたしましても、そのための支援の充実にこれから更に努めてまいりたいと考えております。

最後に、歴代の学長、理事長をはじめとした皆様方の御尽力に対し、また、今日ここにお集まりをいただきました皆様のこれまでの御支援に、心から感謝を申し上げます。この創立20周年を契機といたしまして、放送大学及び放送大学学園のさらなる発展を祈念し、また、今後とも生涯学習の推進に御尽力いただきますようお願いし、御期待申し上げます。今日は、まことにおめでとうございました。

総務大臣祝辞

総務大臣 麻生 太郎

総務省総務審議官 松井浩(代読)



本日、ここに放送大学20周年記念式典が挙行されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。はじめに、放送大学学園をはじめとする関係の皆様方に対し、これまでの御努力に敬意を表しますとともに心からお祝いを申し上げます。

昭和60年に地上テレビ放送一波及びFM放送一波で関東地域において開始された放送大学学園の放送は、現在ではCSデジタル放送により全国放送が行われているほか、その放送番組をケーブルテ

レビを経由して視聴することも可能となっております。放送というメディアを活用して、これまでに延べ86万人の学生が学部・大学院において学習をされ、3万人の方々が卒業・修了されているとお聞きしております。

放送大学学園は、昨年10月に特殊法人から特別な学校法人に転換しましたが、自らが放送局を開設し、放送というメディアを利用して教育を行うという特色は何ら変わるところがありません。今後とも、「大学教育のための放送の普及発達」という目的の下、業務を着実に遂行され、更なる御発展を遂げられますよう期待しております。

さて、昨年12月に地上デジタル放送が関東、中京及び近畿の三大広域圏で成功裡に開始されました。放送大学学園におかれましても、平成18年の地上デジタル放送の開始を目指し、準備を進められているとお聞きしております。

デジタル放送は、各家庭に身近で簡便なIT基盤を形成するものであり、デジタル化により、放送は、国民生活に密着したメディアとしての一層の発展が期待されています。中でも、教育分野については、放送のデジタル化により、ハイビジョンによる高画質・高音質の教育番組の提供をはじめとして、データ放送、双方向サービス、マルチ編成による放送の実施など、学習者のニーズに応えていくことも可能となります。

このように、教育分野は、デジタル化のメリットが最大限に発揮される分野の一つと考えております。放送大学学園におかれましても、デジタル化のメリットを生かした放送の充実を通じ、設立の目的である「大学教育のための放送の普及発達」に努めていただくことを期待している次第であります。

最後になりましたが、創立20周年を迎えられました放送大学の更なる御発展に加え、御臨席の皆様方の益々の御活躍と御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

記念講演

記念式典に引き続き、独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター副所長である石井紫郎氏による記念講演が行われました。

石井氏は、東京大学法学部長、同大学大学院法学政治学研究科長、同大学副学長を歴任され、東京大学をご退官後は、国際日本文化研究センター教授、内閣府総合科学技術会議常勤議員を務めておられます。

ご専門は日本法制史ですが、教養教育に関しても造詣が深く、著書として「転換期の大学院教育」があります。専門分野についても、「法制史研究」、「日本近代法史講義」など数多くの執筆を行っておられます。

当日は「何のために勉強するの？」と子どもにきかれたら、どう答えますか」という演目で、講演していただきました。このテーマは、身近な問題であり、また放送



シンポジウム

記念講演に引き続き、「放送大学の未来に向けて—私たちの20年の経験、そして未来・・・—」というテーマでシンポジウムを開催しました。

まず、パネリストの方々から、放送大学との関わりについて、教員・現役の学生・卒業生等の立場

大学で学ぶ方々には関心のあることです。同時に改めて答えるとなると難しい問題でもあります。石井氏は、40分という短時間で、ご自身の経験を交え、大変わかりやすくお話しくださいました。

概要は以下のとおりです。

- 1 はじめに
私の体験と問題意識。
- 2 教育（勉強）とは：リテラシー（分野によってさまざま）習得。
- 3 勉強は（意識しないで）誰でもしている。
- 4 子どもが「勉強」に疑問をもつのは、学校の勉強。
- 5 なぜか？ ← 学校の勉強特有の諸要素： 強制性、組織性（一体性・画一性）、体系性・階梯性。
- 6 階梯性：最高等の専門教育に必要なリテラシーの積み上げ。論理必然的に必ず、多かれ少なかれ・遅かれ早かれ「落ちこぼれ」を生み出す。
- 7 学校教育の2要素： より高等の教育への階梯としての教育（専門教育のための基礎教育）、自己完結的教育（常識人形成教育）。
- 8 常識人形成教育の要求水準は

から自己紹介を兼ねた発言がありました。

次に記念講演との関連で、「放送大学入学の動機」、「勉強しようと思ったきっかけ」について質問がなされ、それらに対して各々の経験に基づく様々な答えがありました。その中で、放送大学の学生については、「自分の関心のある分野を深めたかった」、「教養を身に付けたかった」、「専門的な知識を身に付けたかった」等の回答が

一義的には決まらない。しかし政治的決定参加、インフォームドコンセント等、現代人に求められる「常識」は高まる。一方、異文化理解能力も必要。

9 二つの要素の相互関係：両者が同一教科中に混在（一般に理科系は前者が多い）。低学年ほど矛盾しないが、次第に基礎教育的カリキュラムが「縁なき衆生」を苦しめるようになる。

10 子どもが疑問をもったら、その躓きのもとをきいてみよう。

11 基礎教育面での「落ちこぼれ」を叱咤激励することの是非。他への誘導も有効ではないか。

12 大学教育においても事情は基本的に同じ。いわゆる「教養教育」問題も、まず二つの要素を分けて考えるべき。

13 おわりに
教養教育、常識人形成教育、そして生涯教育。

上位を占めることが紹介され、「なぜ学ばなければならないか」という疑問とは無縁な学生が多いことに関心が集まりました。

また入学動機に関して、海外の遠隔教育機関の場合には「職業上の資格を取得したい」や「職業上のキャリアを高めたい」等が上位に来ることが多く、本学のように勉強したい人のために存在する大学というのは希有であるとの指摘もありました。



その他、大学への進学率が高まった現在、万人が参加したいときに参加できる大学、学習観の変化に伴い学習者自らが学習していける環境、社会との関係を持つとともに社会人にも門戸を開く大学それぞれが必要とされてきており、放送大学はこれらの先駆的な存在になっているとして、その特徴が示されました。

このことに関し、放送大学の授業は、放送大学の学生だけでなく一般の方々の視聴も多く、日本における生涯教育に広く貢献してい



石井 紫郎（イシイ シロウ）氏
昭和10年生まれ
（略歴）
昭和34年 東京大学法学部第1類卒業
昭和47年 東京大学法学部教授
平成2年 “ 法学部長（～平成4年）
平成5年 “ 副学長
平成7年 国際日本文化研究センター教授（～平成13年）
平成8年 東京大学名誉教授
平成13年 内閣府総合科学技術会議常勤議員
平成15年 日本学術振興会学術システム研究センター副所長（現在に至る）
（著書）
「転換期の大学院教育」、「外から見た日本法」、「法制史研究」、「日本人の国家生活」、「日本近代法史講義」



吉田 文（ヨシダ アヤ）氏
昭和32年生まれ
（略歴）
昭和56年 東京大学文学部卒業
昭和61年 東京大学大学院教育学研究科博士課程単位修得
平成元年 放送教育開発センター研究開発部助教授
平成14年 メディア教育開発センター研究開発部教授（現在に至る）
（著書）
「教養教育の系譜 - アメリカ高等教育にみる専門主義との葛藤 - 」

る現状が紹介されました。

後半には、放送大学20年の歴史をたどり、大きな節目として平成10年の全国化と平成14年の大学院学生の受入開始があげられました。

また、今後の遠隔教育のあり方、学習方法、放送以外の媒体を利用した教育等について意見交換が行われました。放送による教育やインターネットを利用した教育のメリット・デメリット、およびそれらに加えてスクーリングを行うことの必要性和そのあり方について



金沢 碧（カナザワ ミドリ）氏
昭和28年生まれ
（略歴）
昭和50年 ドラマ 「北都物語」（デビュー作）
「俺たちの旅」他
舞台 「ハムレット」、「班女」、「岸田國士シリーズ」、「プラトーフ」、「夢の女」
「若草物語」、「いなくていいひと」他
映画 「ドールズ」、「子鹿物語」、「チルソクの夏」など数々の作品に出演
平成10年 文化庁芸術家在外派遣（英国）
現在、放送大学全科履修生の卒業を目指し、卒業研究論文を作成中



丹保 憲仁（タンボ ノリヒト）氏
昭和8年生まれ
（略歴）
昭和32年 北海道大学工学部工学研究科修士課程修了
昭和44年 北海道大学工学部教授
平成3年 “ 学生部長
平成5年 “ 工学部長
平成7年 “ 総長
平成13年 “ 名誉教授
“ 放送大学長（現在に至る）

言及がありました。

最後に、パネリストの方々から、放送大学に対し、国境を超えた教育・多様なメディアの活用・生涯教育の先駆者としての役割等への期待のことが寄せられ、シンポジウムは好評のうちに終了しました。

なお、記念式典からシンポジウムまでのダイジェストを年末年始に45分間の特別番組として放送する予定です。



久住 眞理（クスミ マリ）氏
昭和21年生まれ
（略歴）
昭和42年 明治大学短期大学部卒業
その後、早稲田鍼灸専門学校、筑波大学、昭和大学 医学部で学ぶ
早稲田医療専門学校校長
昭和58年 放送大学教養学部卒業
平成元年 （学）早稲田医療学園理事長
平成3年 早稲田医療技術専門学校開学
平成5年 人間総合科学大学創設
平成12年 “ 同大学長（現在に至る）
（著書）
「CLINICAL ACUPUNCTURE」、「新時代の“学び”考」



【司会】
柏倉 康夫（カシワクラ ヤスオ）氏
昭和14年生まれ
（略歴）
昭和38年 東京大学文学部卒業
昭和38年 日本放送協会（NHK）入局
平成2年 NHK解説主幹
平成8年 京都大学大学院文学研究科教授
平成14年 放送大学教授（現在に至る）

放送大学20周年記念祝賀会
盛大に開催

放送大学20周年記念式典および記念講演・シンポジウム終了後の夕刻、同じ九段会館において、「放送大学20周年記念祝賀会」が開催されました。祝賀会には、文部科学省の御手洗事務次官、総務省の松井総務審議官、奥野、森山、島村の歴代文部大臣をはじめ約300名が出席しました。

冒頭に井上理事長が挨拶を行い、放送大学創設以来、20年間にわたる御尽力と御協力に対する感謝の辞を述べるとともに、大学創設20年を契機に、放送大学が「いつでも、どこでも、誰でも」が学べる国民の身近な大学とし

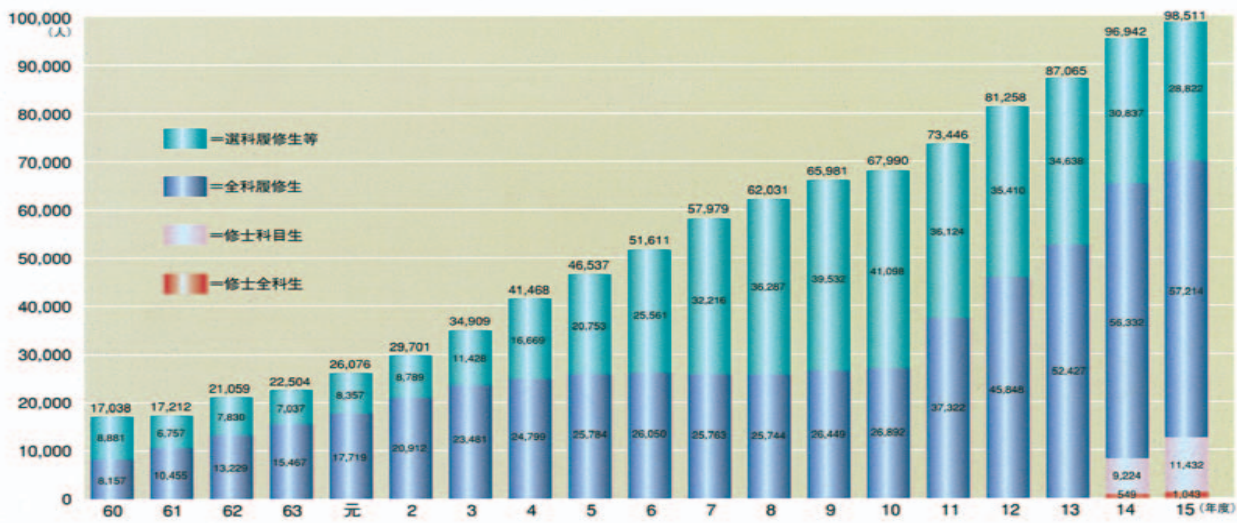
て、より一層充実・発展していくことが出来るよう、教職員が一丸となって努力を続ける旨の決意を述べました。

続いて、御手洗文部科学事務次官、松井総務省総務審議官の祝辞、奥野誠亮元文部大臣の乾杯発声に続き、川上放送大学同窓会連合会長から、放送大学への激励と支援のスピーチが述べられました。会

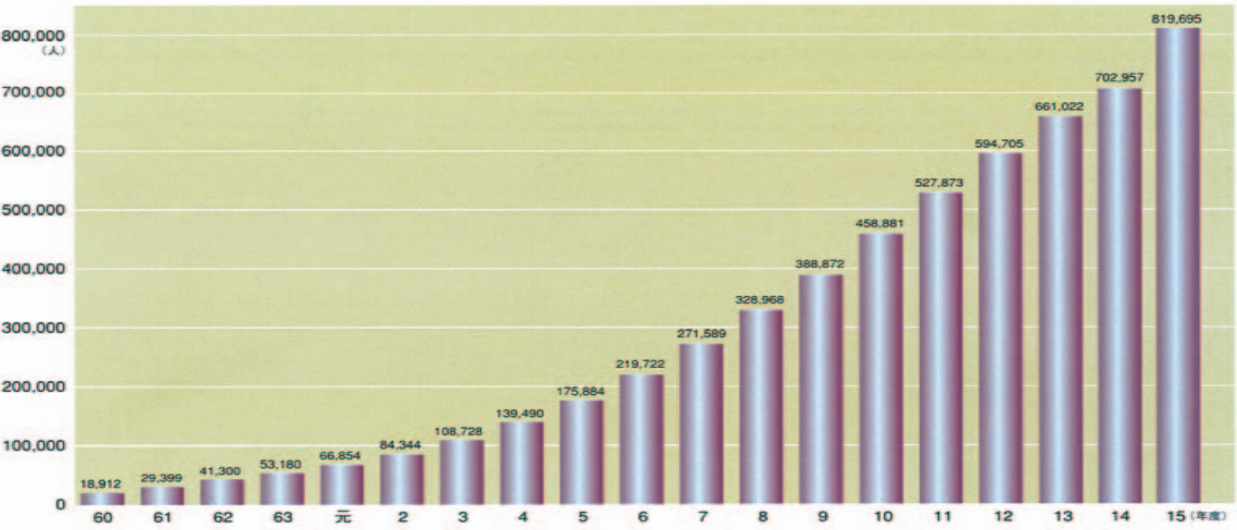
場では、創設時の苦労話、教員と学生・卒業生の親睦、教職員の先輩同士の旧交を温める姿などが見られ、終始和やかな雰囲気に包まれました。最後に丹保学長、中島・大橋両副学長が感謝の挨拶を述べて閉会しました。



在学生数



学習者数
(累計)



放送大学20年の歩み

昭和56年(1981)	7月	放送大学学園設立
58年(1983)	4月	放送大学設置
60年(1985)	4月	学習センター(群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川)学生受入れ・放送による授業開始
62年(1987)	4月	諏訪地区学習センター学生受入れ開始
63年(1988)	8月	甲府地区学習センター学生受入れ開始
平成元年(1989)	4月 4月	3学期制から2学期制へ移行 第1回卒業式を挙行
2年(1990)	10月	ビデオ学習センター(北海道・広島・福岡・沖縄)学生受入れ開始
3年(1991)	10月	ビデオ学習センター(宮城・石川・岐阜・大阪・香川・熊本)学生受入れ開始
4年(1992)	10月	ビデオ学習センター(富山・静岡・愛知・長崎)学生受入れ開始
5年(1993)	4月 10月	東京第三学習センター学生受入れ開始 ビデオ学習センター(青森・岩手・京都・兵庫)学生受入れ開始
6年(1994)	6月 10月	ビデオ学習センターを地域学習センターに改組 地域学習センター(新潟・三重・高知・大分)学生受入れ開始
7年(1995)	10月	地域学習センター(山形・栃木・岡山・愛媛)学生受入れ開始
8年(1996)	10月	地域学習センター(秋田・滋賀・奈良・島根・宮崎)学生受入れ開始

9年(1997)	10月	地域学習センター(福島・茨城・福井・鳥取・山口)学生受入れ開始
10年(1998)	1月 4月 7月 10月 10月	CSデジタル放送による全国放送開始 地区学習センター及び地域学習センターを学習センターに改組 司書教諭資格取得に資する科目を開講 学習センター(和歌山・徳島・佐賀・鹿児島)学生受入れ開始 全国の学習センターで全科履修生受入れ開始
11年(1999)	4月	サテライトスペース(旭川市・北九州市)設置
12年(2000)	4月	サテライトスペース(浜松市)設置
13年(2001)	4月 4月 4月	放送大学大学院開設 東京第一・第二・第三学習センターを東京世田谷・東京文京・東京足立学習センターに名称変更 サテライトスペース(福山市)設置
14年(2002)	4月 4月 4月 12月	放送大学大学院学生受入れ・放送による授業開始 東京多摩学習センター学生受入れ開始(全国50番目) サテライトスペース(八戸市・姫路市)設置 放送大学学園法(全部改正)公布(平成15年10月1日施行)
15年(2003)	10月	放送大学学園が特殊法人から特別な学校法人に移行
16年(2004)	3月	最初の大学院(修士課程)学位記の授与

卒業生・修了者数

- 学部

平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	(人)
3月	9月	3月	9月	3月	9月	3月	9月	
544	61	602	115	629	113	595	136	
平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	計
3月	9月	3月	9月	3月	9月	3月	9月	30,285
1,094	543	1,143	563	1,223	682	1,251	888	

- 大学院(修士課程)
平成16年3月 344人

放送大学名誉教授の称号授与

平成16年7月2日、学長室において、放送大学名誉教授称号授与式が行われ、本年3月31日付で退職した元副学長及び元教授の8人に授与されました。

名誉教授の称号は、本学の教授等として通算10年以上勤務し、教育上、研究上又は大学の運営上特に功績があった者、通算10年には達しないが、教育上、研究上又は大学の運営上特に顕著な功績があった者等が退職した場合、選考の上で授与されるものです。

今回が2度目の授与式となり、前回授与分と合わせて、本学名誉教授は11人となりました。

今回授与された元副学長及び元教授については、以下のとおりです。

麻生 誠 元副学長
平成7年4月1日付で本学教授に就任
平成11年4月1日付で本学副学長

に就任
(専攻) 発達と教育
(分野) 教育計画論

酒井 豊子 元教授
平成元年4月1日付で本学教授に就任
(専攻) 生活と福祉
(分野) 家政学

濱田 隆士 元教授
平成5年4月1日付で本学教授に就任
(専攻) 自然の理解
(分野) 地球科学

渡邊 守章 元副学長
平成5年4月1日付で本学教授に就任
平成11年4月1日付で本学副学長に就任
(専攻) 人間の探究
(分野) 表象文化論

宮澤 康人 元教授
平成3年3月1日付で本学教授に就任
(専攻) 発達と教育
(分野) 教育学

傳田 章 元教授
平成6年4月1日付で本学教授に就任
(専攻) 人間の探究
(分野) 中国語

阿部 齊 元教授
昭和60年7月1日付で本学教授に就任
(専攻) 社会と経済
(分野) 政治学

伊藤 貞夫 元教授
平成6年4月1日付で本学教授に就任
(専攻) 人間の探究
(分野) 西洋史学

平成16年度開設改訂科目紹介

心の科学（'04）

「心とは何か」という問いかけは、私たち自身の存在そのものを問うあらゆる問いの中でも、究極の問いの一つでしょう。人は誕生以来、内面で起こるさまざまな経験や自覚内容をもとに、心とは何かという信念を形作ってきました。一方、哲学者は、独自の思索と思弁から心の多彩な概念化を図ってきました。その多くが、現在も心の日常常識の源となっています。では、これらの知恵の集りは、確かな解を与えてくれたのでしょうか。話としてもっともらしく面白く納得するのですが、客観的な裏づけのある解かという、どうでしょうか。その一方、哲学を基盤にすえながらも、私たちは新たに心を解く科学的探究法を手に

しています。その結果、とくに19世紀の中ごろから物理学を手本とする新心理学、実験心理学を中心とする科学的心理学が立ち上げられました。かくして「心の科学」は新たな段階に入ります。さらに20世紀中頃には、情報科学、数学的言語学・論理学、脳神経科学などからの知見を加え、コンピュータの仕組みと機能から、またこれを手段として、新たに「認知科学」が打ち立てられました。これは人の心に限定せず、動物からさらに機械の意識、知性や言葉といったことにまで

展開されます。当科目は、21世紀の「心の科学」の根底をなす科学的な考え方、基本論理構造を明らかにし、ことの検証活動をいろいろなトピックスで示します。解の存在証明と解の提示にいたるでしょうか。知の最先端を自ら吟味、体験ください。（文責 西川 泰夫）



西川教授



波多野教授

発達と教育 教授 西川 泰夫
発達と教育 教授 波多野 諄余夫

若者の科学離れを考える（'04）

自然の理解 教授 岩村 秀
副学長 中島 尚正
発達と教育 教授 波多野 諄余夫

「若者の科学離れ」という言葉を耳にするようになってから久しい。わが国のみならず、多くの先進諸国で問題となっている。何が若者の科学への関心を希薄にしているのか、科学や技術そのものに問題はないのか、科学教育に携わっている者はどのように認識し対応しているのか、まず実態と問題点を探った。続いて、若者に科学の心と呼び戻すために、科学者、技術者および科学教育関係者は何を目指し、何をなし得るのか、またそのしくみを考えた。判断材料を幅広く用意することにより、学生諸氏に「科学離れ」の問題意識を醸成し、一人一人に建設的な意見を持ってもらうことが、この主題科目の意図したところである。

「若者の科学離れ」の治癒に特效薬はない。これは、様々な視

点から機会あるごとに繰り返し取り上げられなければならない問題である。日本学術会議も、19期に「若者の理科離れ問題」特別委員会を設けて活動を始めている。

他の先進諸国と違って、わが国では「若者の科学離れ」の延長線上に、成人の科学に対する理解・関心の低さが認められる。国民の半数近くが大学に進学する今日、文系を含めて全ての大学生を対象

とした体系的な一般科目を充実させ、自然科学的認識がどのように成立し、科学・技術の分野でどのような進展が見られ、また顕在化している負の側面をどう解決しようとしているかを、講義することが問題解決に有効であろう。本学の教育課程編成においても、これを掘り下げて考える契機になればと期待している。



岩村教授



中島副学長



波多野教授

古代地中海世界の歴史（'04）

東京大学大学院 教授 本村 凌二
大妻女子大学 非常勤講師 中村 るい

古代とははるか遠くに過ぎ去った時代にすぎない。21世紀に生きる現代人の目にはどうしてもそう見える。ところが、文字が生まれ歴史が始まりおよそ五千年を経たが、そのうち実に四千年は古代だったのである。コンピューターを通じて地球の裏側から瞬時に情報を獲得できる時代を迎えたにしろ、われわれははたしてどれくらい古代の枠組みから抜け出しているのだろうか。

昨今、とりわけ9.11の事件以降、しばしば文明の衝突が言の葉にのぼっている。そこで懸念されるのは、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の対立関係である。事の当否はともかく、これらの一神教文明を生み出した母胎こそが古代地中海世界であった。

そこでは、楔形文字やヒエログリフが生まれ、やがてアルファベットが考案されて、地中海世界一帯に広がっている。これらの文字で書かれた言語には、シュメール語、アッカド語、エジプト語、ヘブライ語、フェニキア語、アラム語、ギリシア語、ラテン語など数えきれないほどあり、それらの言語がそれぞれ各地で使用されている。このためにそれに応じて歴史叙述が細分化されるのが常である。それは当然としても、ひとつの文明史と見なせば、同一人の目でながめることもそれなりの意味があるのではないだ

ろうか。そのような展望のもとに、狭義ではローマ史家である本村が古代地中海世界の文明史を語ることにした。この文明世界はローマ帝国の下でひとつの歴史上の統合体となったのであるから、それも故なきことではなかろう。美術史の面については中村が担当している。



本村教授



中村講師



生活と福祉 助教授 奈良 由美子

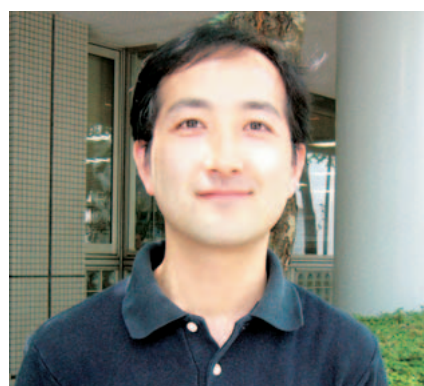
大切なところ

事をしなければとも思う。大切な空間であるから、機能的でかつ心地よい環境となるよう配慮しつつ使っている。

研究・教育の活動と人間関係の総体としての研究室にも、また特別の思いがある。そのありかたは、研究者としての自分らしさを具現化しているものとなるからだ。私は研究テーマとして生活リスク論と生活情報論に取り組んでいる。そこに軸足を置きながら、関連領域だけでなく全く異なる分野の研究者と共同研究を行うことは、非常に楽しい。前任校では卒論や修論の

指導を担当する学生・院生さんとの学び合いが、研究室を大いに活性化していた。放送大学では直接会ってやりとりする機会を持つことはなかなか難しいが、もっぱらインターネット空間で学び合っている。これもとても楽しい。

放送大学に着任して1年が経った。まだまだ自分らしさを模索中である。研究室を大切なよりどころとしながら、研究と教育に頑張りたい。



自然の理解 助教授 二河 成男

物質・情報・生命

体差が見られるのは、その何よりの証拠である。したがって、様々な生物、あるいは個体のDNAの配列情報を比較する、つまり設計図を見比べると、いろいろなことが明らかになる。その中でも私が研究対象としているのは、生命の進化と個体差の遺伝学である。前者は、共通の祖先がDNAの配列情報として持っていた生命の設計図が、“生きる”という制約を受けながら、長い年月をかけて変化してきた過程である。後者は、各個体が持つ設計図の相違が、顔形や代謝生理能力などの個体差

となって現れる、遺伝的なメカニズムである。両者とも、設計図であるDNAの配列情報の変異がその根本にある。そのため、生物種間、あるいは個体間で、そのDNA配列情報を比較解析することによって、その本質に迫ることができる。このように、DNAという物質に刻まれた情報がどのように生命として表現されるか、また生命のつながりの中でどのように変化してきたかという問題に対して、私は、分子生物学やコンピュータ、昆虫を使って、研究を展開している。

教務のお知らせ

平成16年度第2学期教務スケジュール

学部(教養学部)											
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
第2学期の学習	1(金)	放送授業期間	28(火) 29(水)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					
	16(土)	2(火)	9(水)	26(日)	3(木) 19(土)						
第1学期の準備	16(土)	面接授業(毎週型)	面接授業(土日型)	面接授業(集中型)の追加登録	面接授業(集中型)						
	16(土)	2(火)	9(水)	26(日)	3(木) 19(土)						
平成17年度	16(土)	12(金) 18(木) 19(金) 25(木)	2(火) 9(水) 16(土) 23(日) 30(日)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					
	16(土)	12(金) 18(木) 19(金) 25(木)	2(火) 9(水) 16(土) 23(日) 30(日)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					
平成17年度第1学期の準備	16(土)	12(金) 18(木) 19(金) 25(木)	2(火) 9(水) 16(土) 23(日) 30(日)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					
	16(土)	12(金) 18(木) 19(金) 25(木)	2(火) 9(水) 16(土) 23(日) 30(日)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					

大学院(文化科学研究科)											
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
第2学期の学習	1(金)	放送授業期間	28(火) 29(水)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					
	16(土)	2(火)	9(水)	26(日)	3(木) 19(土)						
平成17年度第1学期の準備	16(土)	12(金) 18(木) 19(金) 25(木)	2(火) 9(水) 16(土) 23(日) 30(日)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					
	16(土)	12(金) 18(木) 19(金) 25(木)	2(火) 9(水) 16(土) 23(日) 30(日)	4(火) 5(水) 20(木) 21(金)	集中放送授業期間	31(木)					

質問 「認定心理士」と「臨床心理士」の違いについて教えてください。

回答 認定心理士とは、大学における心理学関係の学科名が心理学という直接的名称が使われていない場合でも、心理学の専門家として必要な最小限度の標準基礎学力と技能を修得している、と日本心理学会が認定した人のことです。
臨床心理士とは、日本臨床心理士資格認定協会が行う、書類審査・筆記試験および口述試験の資格試験に合格した人を言います。放送大学大学院は第2種指定校のため、大学院修了後1年間の心理臨床実績の後に受験します。合格後も、倫理綱領を守り、さらなる研修を重ね、5年毎の資格更新が義務づけられているのが、臨床心理士です。

「住所等変更届」の提出について（お願い）

ここ数年、印刷教材等について、受取人不在による返送が非常に多く見受けられます。

印刷教材等については、学生の皆さんが、放送授業等を受講される際に、学習に支障がないよう、迅速な発送を心がけておりますが、郵便という通信制の「命綱」がうまく機能しないことにより、放送開始時に教材がお手元に届いていないケースは、以下のことを行っていただくことで、その多くが解消すると思われま

1. 印刷教材等が、送付される時期には、郵便受けをこまめにご確認いただき、印刷教材等（第4種郵便）または、郵便局からのご不在連絡票が、投函されていないかどうかのご確認をお願いいたします。

特に、ご自宅等の郵便受けの投入口が、印刷教材等の小包を投入できない大きさの場合、教材等の代わりに、ご不在連絡票が投函されている場合がありますので、ご注意ください。

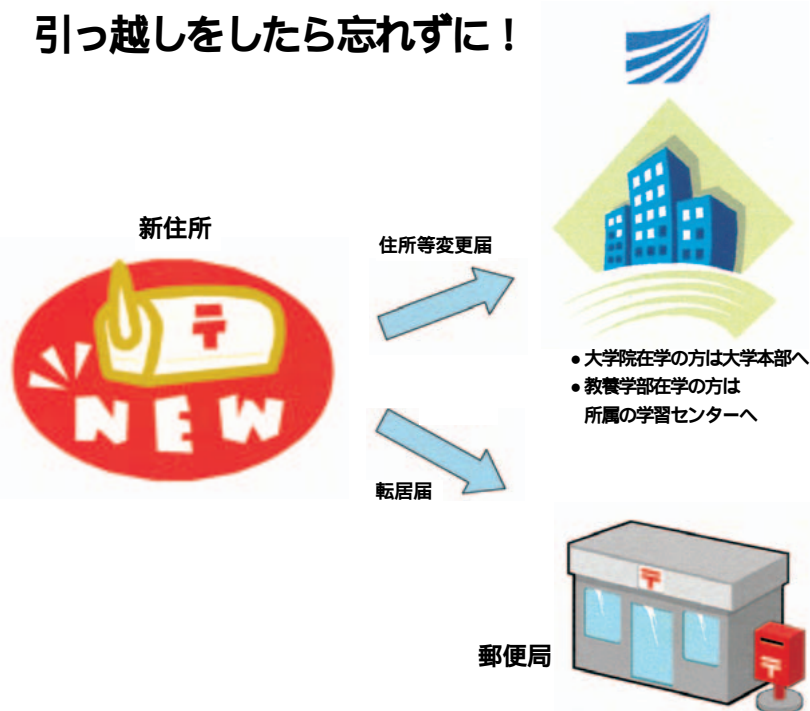
ご不在連絡票が、投函されていた場合は、速やかに、指定の郵便局に受取方法をご連絡ください。

2. 現住所が変更になった場合は、「住所等変更届」を所定の提出先へご提出ください。

提出先は教養学部在学の方は所属学習センター、大学院在学の方は大学本部となります。

同時に、最寄りの郵便局へ転居届をご提出ください。

引っ越しをしたら忘れずに！



編集後記

4月から新しくなった委員会が編集した第1回目のon airを送ります。これは放送大学通信ということにもなっていて、どちらかというと、大学から学生へ向けて連絡するというものでした。今回掲載した座談会でも述べられているように、放送大学で何をやっているか、その内容をもう少し広く外部の人々に紹介するものにもしていきたいと思っています。そういう観点から、こんな記事を書けると良いなというご意見やご希望がありましたら、学生サービス課へお知らせください。今回は、大学院の最初の修士修了者が出たことに関して話し合いました。座談会という形式を取ると、いろいろな先生の考えなども身近に伝わって、いいと思っています。

（杉本大一郎）

大学通信編集委員会

（平成16年度）

委員長	教授	杉本大一郎
副委員長	同	香山壽夫
委員	同	齋藤高雅
〃	同	長岡亮介
〃	助教授	奈良由美子
〃	同	山岡龍一
〃	同	青山昌文
〃	同	杉森哲也

（編集事務担当
教務部学生サービス課）



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/np>

ISSN 1343-3369

R100